

①日本アレルギー学会と厚労省が共同して作成したアレルギーポータルサイトに小児の喘息の解説があります。  
読んでみましょう


アレルギーポータルは  
<https://allergyportal.jp/>

②左にある 「アレルギーについて」 をクリックします。



③ 「小児の喘息」 をクリックします。

ホーム > アレルギーについて



## アレルギーについて

アレルギーの症状や治療などを解説しています。

**アレルギーとは**  
アレルギーがどういうものか、説明しています。

**アレルギーの検査について**  
アレルギーの原因となるアレルギー物質を調べるための検査について解説しています。

**アレルギーの治療について**  
アレルギーの治療方法について解説しています。

**主なアレルギー疾患**

<b>小児のぜん息</b> ぜん息の特徴や治療で大切なことを解説しています。	<b>成人のぜん息</b> 長期管理の大切さや薬の種類などを解説しています。	<b>アトピー性皮膚炎</b> 抗炎症治療とスキンケアの大切さを解説しています。	<b>アレルギー性鼻炎</b> 通年性と季節性の違いや治療などを解説しています。
<b>花粉症</b> 花粉症の特徴や治療などを解説しています。	<b>アレルギー性結膜炎</b> 目に生じるアレルギーの特徴と治療などを解説しています。	<b>食物アレルギー</b> 正しい診断と栄養食事指導の大切さを解説しています。	<b>重症薬疹</b> 一刻を争う重症薬疹の治療などを解説しています。
<b>接触皮膚炎</b> 原因の探し方や治療の進め方などを解説しています。	<b>蕁麻疹(じんましん)</b> 種々の原因で生じる疾患の特徴や対応法などを解説しています。	<b>ラテックスアレルギー</b> 天然ゴム成分による疾患の特徴や回避法などを解説しています。	<b>アナフィラキシー</b> 生命に關わる反応の経路や治療などを解説しています。

## ④小児の喘息の解説を 読むことができます。

しっかり読んでみましょう。



アレルギーについて  
小児のぜん息

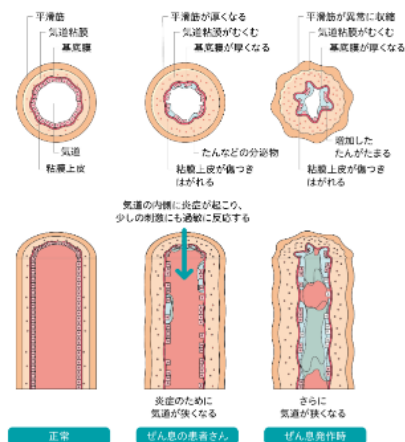
### 特徴について

ぜん息は、呼吸をするときの空気の通り道（気道）にアレルギー性の炎症があるため、さまざまな原因に対して過敏に反応して気道が狭くなって、呼吸が苦しくなる病気です。このとき、小児は大人と違って苦しさを言葉でうまく伝えることができません。泣いたり不機嫌になったりすることで苦しさを伝えようとする。小児の気道は細いので「ゼーゼー」「ひゅーひゅー」と鳴るような呼吸の音が聞こえる場合がありますが、乳幼児でははっきりと聞こえないこともあります。ぜん息の症状は昼間より夜間や早朝に生じることが多いので、くり返されるようであれば様子を注意深く見る必要があります。

気道のアレルギー性の炎症の治療をしないで（薬を服用しないで）そのままにしておくと、くり返して何度もぜん息発作が起きてしまいます。気道に炎症があると、わずかな刺激にも反応しやすくなり、ダニや塵、ペットの毛などの刺激でもぜん息症状があらわれやすくなります。かぜをひくと症状が悪化しやすくなる場合もありますので、かぜをひかないような注意も必要です。ぜん息の大きな発作が起きると気道がふさがって、呼吸ができなくなり、死んでしまうこともありますから、医師の指示に従って炎症をさげる薬を忘れずに服用してぜん息の発作を予防する治療が必要です。

子どもの様子を見るとききの主なポイント

- ・泣いたり不機嫌になったりすることが多くなった。
- ・かぜをひくたびに咳が続く。
- ・呼吸するときに「ゼーゼー」「ひゅーひゅー」と音が出る。
- ・遊びまわって遊んだあとに咳が出始める。
- ・夜間や早朝に苦しそうに咳をする。



⑤解説を最後まで読むと 「よくある質問」があります。  
ここもよく読んでみましょう。

小児のぜん息に関する 対策についてはこちら	小児のぜん息に関する 書籍（患者さん向け）はこちら	小児のぜん息に関する 書籍（医療従事者向け）はこちら	小児のぜん息に関する よくある質問はこちら
			
アレルギー対策	アレルギーの本棚 (患者さん向け冊子・書籍など)	アレルギーの本棚 (医療従事者向けガイドライン)	よくある質問

## 小児のぜん息 の検索結果

「ゼーゼー・ヒューヒュー」（ぜん鳴）したらぜん息ですか？

1回の「ゼーゼー・ヒューヒュー」だけではぜん息の診断はできません。しかし、何回も繰り返される場合は、ぜん息の可能性がります。乳幼児は、年長児と比較して気管支が細くて、痰などの分泌物の量も多いため、呼吸器感染症（急性気管支炎や急性細気管支炎など）でもぜん息と同様に「ゼーゼー・ヒューヒュー」が起きることがあり、ぜん息だけでぜん鳴が起きるわけではありませんので、ぜん息と診断することは簡単ではありません。かぜをひいたときなどに胸のあたりから「ゼーゼー・ヒューヒュー」という音が聞こえたり、息をするのが苦しそうになったりすることが3回以上起こしたことがある、あるいはそのような症状が気管支拡張薬の吸入で改善する場合には「乳幼児ぜん息」と診断されます。また、ぜん息の長期管理薬（ロイコトリエン受容体拮抗薬や吸入ステロイド薬）を1か月ぐらい服薬して、その効果のあらわれ方で判断する場合があります（「診断的治療」といいます）。

#小児のぜん息

走るといつも咳込むのですが運動しないほうがよいでしょうか？

運動をすると咳が出る人は「運動誘発ぜん息」の可能性があるので、医師に相談して、症状なく運動ができるように必要な治療を受けましょう。運動はぜん息の増悪因子の一つですが、適度の運動は体力づくりに欠かせません。すでにぜん息の治療が開始されていても運動時の症状を繰り返す場合は、ぜん息のコントロールが不十分ということです。治療法の変更などの対応が必要で、かかりつけ医に相談してください。まだぜん息の診断を受けていない場合には、他の病気かどうかを確認する必要がありますので、医療機関を受診しましょう。

#小児のぜん息 #成人のぜん息